

1 学校として目指す授業

・「わかる授業」「できる授業」 ・ねらいの明確な授業 ・見通しのもてる授業 ・「楽しい」「おもしろい」授業

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析 (小学校6年生)

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
国語、算数とも全領域で国の平均を下回っている。特に国語では全国との差が大きく、中でも「書くこと」では平均正答率が20%を切っている。「わかる」「できる」と思えるには基礎学力が必要であるが、その基礎となる部分がまだ育っていない児童が多い。	日常的に読書に親しんでいる児童が少なく、新聞に至っては8割近い児童が読んでいない実態がある。現在の学習が将来に必要なことは認識しているが、そのために積極的に動いているとは言い難い。学習に楽しさや面白さを感じ、そこから自主学習につなげられるようにしていく。

(2) 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析 (小学校4～6年生)

④競走し勝つことや誰かに褒められることを目的とせず、自分のために学習している児童が多い。自分のために学習することの価値を高めていきたい。
 ⑤自分が理解したことや考えたことを他の人に説明する時間が足りていないと感じている。授業の中で意見交換する場面を定番として児童が感じるように計画する。
 ⑥答えだけを出すのではなく、途中の過程を説明しようとする児童が多く見られるようになった。一方で教科や学習内容によって得意不得意の差が大きく、苦手なものに対して挑戦するより避けてしまう傾向が見られる。苦手な教科や分野に関して興味関心がもてるような授業展開をしていく。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析

国語、算数ともに、目標値を下回る結果となっている。算数はデータの活用領域で目標値から10P以上低くなっている。国語は目標値を上回る区分もあるが、和が国の言語事項に関する事項はスコアが低い。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果

東京都統一体力テストでは、本校は持久力に特に課題がある。児童が楽しく活動しながら持久力をはじめとする体力を向上できるよう、体育科では鬼あそびを授業の導入で取り入れたり、休み時間にも取り組める活動をしたりするなどして楽しい授業を目指す。

3 児童の学力・学習状況等の課題

- ・ 題意を正確に把握するための、読む力（正しく読み取る力）を付けていくことが必要不可欠である。
- ・ 学習した内容についての定着を図るために、定期的に復習することが必要である。
- ・ 家庭学習の習慣化が必要である。家庭の協力が得られにくい児童についても習慣化させるために、GIGA端末の活用を推進していく。

【授業改善推進プランの活用法】

①「1 学校として目指す授業」を設定する。
 ※学校経営方針との関連を確認すること。

②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。

③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。

④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。

⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。

⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。
 評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

4 学校全体の授業改善の視点

基礎基本の定着をベースに、指導のねらいが明確で児童にとって見通しがもてる、意図的・計画的な授業を展開する。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	・言葉の動作化を通して、理解を深める。順序を図で示してわかりやすくする。				・問題の場面と実際の生活を結び付けて話し合い、立式につなげる。				・自分の感じたことを動作や言語で表した振り返りを蓄積していく。		・鑑賞の学習などで動作化をして、体全体で音楽の特徴をつかむことができるようにする。		・見通しをもつて取り組めるように、毎時間黒板に手順やめあてを板書して取り組む。				・多様な運動を示して経験することを通して徐々に洗練された動きになるようにする。				・主発問につながる文を動作化して、自分の考えをもつことができるようにする。	
中学年	・ペアやグループで学習する等、学習形態を工夫し、友達の考えにふれるようにする。		・学習問題を自分たちで作り、予想を立てた上で解決を図るようにする。		・問題文に線を引かせたり図を引かせたりして、問題の場면을想起させる。		・観察の視点について具体的な指導を行う。比較をさせ、思考力の向上を図る。				・感じたことを言葉で具体化して提示し、動作化しながら表現に生かせるようにする。		・ICTを活用し、道具の使い方などは手元を映してわかりやすく説明し技術の定着させる。				・意欲を継続できるように、活動の充実や児童の活動を認める言葉かけを行っていく。				・価値に対する自分の考えをもち、話し合いや意見交流を通して考えを広げることができる。	
高学年	・日記や感想など文章を書く機会を日常的に設定したり、話し合い活動を充実させたりする。		・小グループで、ともに調べたり、教えあったりする学習を意図的に設定する。		・問題文を数直線図などに表すなどして、問題の意味理解を深める活動を充実させる。		・観察の視点について具体的な指導を行う。実験を通し、思考力の向上を図る。				・ペアやグループ学習などで協力し、感じたことを音楽の知識と結び付けられるようにする。		・ICTを活用し、道具の使い方などは手元を映してわかりやすく説明し技術を定着させる。		・動画等を活用し、活動を視覚的に捉えやすくすることで安心して活動できるようにする。		・児童一人一人が楽しみながら、技能を身につけることができるような場を設定する。		・ALTと連携し、発音練習を多く取り入れるなどして、英語表現になれる活動を充実させる。		・自己の意見をもった上での話し合い活動を設定し、対話を通して考えを深めるようにする。	